

不断桜

地泉園は、9月末から春の終わりまで咲く非常に珍しい桜の木でも有名です。これにより、実光院は日本では桜の花と秋の赤いもみじの葉が同時に鑑賞できるわずかな場所の一つとなっています。

典型的には、3月と4月の数週間という非常に短い期間にわたって複数種類の桜が咲き、木は日本の象徴となった繊細なピンクの花のみを見せています。

しかし、実光院の敷地内にある「不断桜」のさまざまな枝は、世話をしている僧侶によると、花が咲く7か月の間に異なる時期に咲くと言います。その木の樹齢は約100年であると考えられている。

寺院の僧侶たちは木から挿し木を取り、庭の別の場所に移植し、そこで花を咲かせ始めました。

日本の国花である桜は、自然の儚さの象徴であるということも、仏教の影響を受けた日本文化の一面を表しています。花の美しさと儚さは、日本人にとって死や運命を受け入れることと繋がっています。そのため、桜はその象徴としてよく日本の芸術や漫画、アニメや映画に登場します。桜の花は100円硬貨にも描かれています。